

港湾経済研究

人間生活と港湾

日本港湾経済学会年報

No. 18 1980

日本港湾経済学会編

序

日本港湾経済学会会長 北見俊郎

経済諸科学が体系化されるようになってから、時代はまだ二世紀ぐらいである。しかしその道程の中で、例えば経済学説史は、いつの世でも研究者は、その国の、そしてその時代の重要にして基本的な課題に取組んでいることを教えてくれる。しかもそうした軌跡が社会と学問の発展となっていっている。重要にして基本的な課題とは「生きている人間の生活」についてである。

われわれの日本港湾経済学会も今年で発足以来、第19回全国大会を佐世保港で開催することとなった。この「全国大会の歩み」もまたそうした重要な課題と取組んできたことには変りない。しかも今年度大会の共通論題は「人間生活と港湾」というまさに基本的な課題そのものであり、したがってこの軌跡が将来にむかって、わが国の港湾と学会に一つのエポックを与えてくれることを心から念ずる次第である。勿論、自由課題においても、それがユニークな個々のテーマであっても、根本的には「人間生活と港湾」にみな深いつながりをもつものであるはずである。学会が今年度の全国大会に際して、そのような基本的なテーマを掲げるには、それなりの時代的要請があってのことではあるが、少なくも流行的・派生時テーマでないだけに学会にふさわしい課題といわねばならない。

願わくはこの年報をもとにして開催される大会が有意義なものとなり、わが国における港湾とその学問の健全な発展のために実のり豊かなものとなるように心から祈る次第である。また最後にこの年報のために原稿をおよせ下さった会員各位をはじめ、学会の発展に心くだいて下さる多くの方々、誠意をもって印刷をして下さった文化印刷社、とくに佐世保大会に絶大な御尽力をして下さった地元の方々に厚く御礼を申し上げると共に、今後共良き御教導の与えられることを念ずる次第である。

昭和55年初秋